

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ほろむい(えがお荘)	評価実施年月日	平成21年7月1日～平成21年7月31日
評価実施構成員氏名	岩澤 孝子・山本 純人・柴田 美奈子・伊東 富美子・吉田 久美子・三上 洋子・兼丸 紀子・石黒 笑美子 えがお荘		
記録者氏名	岩澤 孝子	記録年月日	平成21年7月31日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>理念としては、「安心して暮らすということ。」「自分らしく生きるということ。」を主として掲げており、その理念の次ぎに来る文章として“地域に密着し近隣の人とふれあい、自然とふれあい、仲間がいて、語り合い、笑顔が生まれる。”という文言を添え、理念をより一層具体的に表している。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>全体会議・ユニット会議を定期的に行い、理念を基に話し合いをしている。また、新しい職員の方にもオリエンテーションの中で理念について説明している。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らしていくことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>開設時、町内の集会に出向いて、地域の方々へのご説明及びご理解を得ています。また、新しく入居される際には、本人及び御家族に地域の中で暮らすことの重要性をお話させていただき事を継続し、運営推進会議の中でも、民生委員・町連会長・地域包括支援センター長の方々にアドバイスを頂きながら、新たな地域への関わり方や協力を相談している。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>散歩の際、こちらから挨拶することが多かったが、最近では、近隣の方より挨拶をして頂き、気持ちよく散歩ができてます。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会に加入しており、地域で開催される、地域のお祭りや盆踊りなど、幾つかの地域行事等にも参加している。地域児童館やボランティアの方々による催し物など、月2回程度の交流を行っている。</p>	○	<p>地域の催し物だけでなく、町内会で定期的に行われている、草刈りや花壇の手入れなどにも積極的に参加していきます。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>今までに数回、町内会に出向き「高齢者介護について」の講義などを行っています。また、グループ内の居宅介護支援事業所を通じ、高齢者介護について地域の方への情報発信を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価や外部評価の結果と合わせて、「現状の入居者にとって、どうあるべきか」を検討し、具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に一度、定期的に運営推進会議を行っており、地域に根ざしたグループホームのあり方等を念頭に置き、会議出席者の方々との話し合いで、出された意見を活かせるよう努めています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議の議事録やグループホームのお便りを届けたりと、こまめに顔を出し、その都度、運営上の疑問点や問題点を話をさせていただき、市との繋がりに努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>過去には、活用していました。 現在は、後見人の必要な方1名入居されています。</p>		制度が十分理解出来ていないので、研修などを受け、学ぶ必要がある。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待行為につながらないように職員間で十分話し合いをし情報を得るよう努力している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>ご利用者やご家族に契約内容を時間を掛け解りやすく説明しており、その後に疑問点を話し合い、ご利用者やご家族に理解・納得していただいたうえで、最後に契約書・重要事項説明書に署名・捺印を頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者の方の情報をご家族の方に伝え、ご家族の方から、ご利用者の思い不満など言ってもらえるように心がける。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	隔月でグループホーム便りを発行し、生活状態・行事などを、ご家族様にお知らせすると共に、来荘時には、個々にお話をさせて頂いています。また、体調の変化はその都度、電話や来荘時に、ご家族様に状態・結果を報告しています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	設置した苦情箱やご家族様からの直接、意見・不満・苦情をいただき、その都度、施設長・管理者・職員で対応策を検討し、出来るだけ早く業務に反映させる。	○	ご家族等の意見・不満・苦情等を職員に回覧する事により、その内容・対応策を職員全員が知識として残し、それぞれの業務に反映させる。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段より、職員とのコミュニケーションをとり、業務内容・介助方法などを話し合いにより改善を行い、改善できない場合はホーム長会議にて各ユニットの意見を頂き、現場で反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な場合、管理者や職員間の話し合いで、シフト変更などで、ご利用者の状況に合わせた勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットスタッフは6名～7名からなり、基本的には固定としているが、異動や離職の場合に備え、外出行事や屋内行事などの全体行事を通じて、他のユニット利用者及び他職員との交流を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		<p>年間研修計画はないが、施設外での認知症介護研修を毎年数名受講している。その他研修・講習の情報があれば、随時、全職員に回覧し希望者には受講していただく。</p> <p>管理者や職員が知りたい、介護情報や介助方法を随時提供する。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>現在、同業者との間でネットワーク作りや勉強会の話が出ているが、まだ実現にまでは至っていない。 また、営業を兼ねて、施設長自ら他のグループホームに伺い交流を図るよう努力している。インフォーマルな部分において同業者と交流し情報を得ている程度である。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>全体では年2回程度の親睦会を実施し意見交換の場を設け、また、ユニット会議を随時設けて、ストレス軽減やより働きやすい環境作りを心掛けている。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>運営者が管理者や職員個々のシフト希望を基に作成を行い、作成後も職員個々とコミュニケーションを図り、勤務の現状と体調を考え修正を随時行い、作業環境を整えている。 また、職員が現状に留まる事の無いよう研修・資格等のスキルアップ支援を行っている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>入居間もなくは勿論、普段の会話や行動等から、さりげなくご本人に聞いたり感じ取り、職員間でも情報交換等しながら、ご利用者との信頼関係を築いている。</p> <p>更に深く情報交換等をして良い方向に職員対応を統一させていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>入居後は勿論、来荘時に要望等を聞き、ご本人・ご家族ともに満足していただける様、努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたときには常に「他のサービスも視野に含め、その人にとってどの様な支援が必要なのか、私達にできる事は何か」という視点に立って対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	デイサービスから利用して頂き、段階を踏んで慣れて頂けるよう施設全体で考えている。また、それ以外の方も、入所前のリズムをなるべく崩さず快適に過ごしていただくよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介助というより、一緒に過ごしているという姿勢で日々を送っている。必ず1日1回は喜んで頂けるよう、工夫している。		入居者、職員が全員笑って過ごせるよう、普段から努めていきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	要望を聞き入れることだけでなく、行事等もご本人と一緒に参加していただく機会を設けられるよう努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	どの様な家族関係なのか把握しながら、面会や行事等に参加して頂いた時、会話や写真(行事等の写真)を通して関係が良い方向に向かうよう努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が希望している、理美容院や食料品店など、希望があれば職員付き添いのもと送迎する、支援を行っている。また、昔からのお友達など気軽に来荘できる雰囲気作りをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	必ず職員が仲立ちとなり、ひとりで過ごすような事がない様気を付ける。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	街で会ったりしたときは、挨拶をして近況等を含めた世間話をしたりして関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話やご家族からのお話等の情報から希望の把握に努め、定期的会議で職員間で話し合い把握・検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者の情報やご本人・ご家族からの言葉や声をもとに把握に努めている。		職員通しでの把握に努めているか等の確認を取り合い、意識向上に努めていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	定期的な会議で話し合い、現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者ごとにケアプランを作成しているが他の職員や介護支援専門員からの助言も反映させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	現状に即した計画の作成のために、日頃から情報の共有を行い、都度、介護支援専門員・ホーム長に相談・報告・確認を行い、必要であれば、ご家族に相談するなどして対応している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	経過表への記入や申し送りノートへの記入をまめに行い、職員間の情報共有を行い、連携を取りながら実践し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、ご家族の状況や希望に応じ通院や送迎等必要な支援に応じられるよう努めている。 また、ご家族・地域方々からの介護相談にも随時対応し、他のサービスと連携を取り、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地区連絡会長や民生・児童委員の方々からお話を頂いたり、幌向地域ボランティアの方々からの協力、消防署の協力により普通救命の講習を設けたり等の協力を得ている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	支援計画時及び、入退院時、その他、極度に体力等の変化が見られた時等は、利用者にとって今のような支援が必要かという視点に立って、ご家族と話し合い了承を得ながら他のサービスも含めて検討を行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	常時ではないが、必要に応じて、相談やアドバイスを頂ける関係づくりをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	提携しているクリニックドクターの定期的な訪問診療を受け、24時間連絡体制が取れており、緊急時に素早く対応できる体制を整えている。 また、ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医への受診にも対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門ドクターはいないが、地元心療内科と提携しています。 また、心療内科医・ご家族・職員と、ご利用者の情報を共有しながら、心療内科医に受診・往診・治療・処方を受けられる支援を行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師1名・准看護師2名が勤務している為、掛かりつけの医師または提携クリニックの医師に健康管理、状態の変化など随時相談し支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には必ずお見舞いに行き、ご利用者の状態を把握し、ドクター・相談員及びご家族とコンタクトを取り、情報を共有しながら早期退院及び退院後の受入れ体制などを相談し連携をしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状態に異変が見られる時は、今後の方向性を兼ね、常にご家族に報告や意見を聞きながら、必要時にはドクターよりのムンテラ(説明)をして頂き、今後、重度化・終末期の対応をどうするかを、ご家族・ドクター・看護師・介護スタッフと相談・検討し対処している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルを迎えるにあたり、施設側でご利用者が混乱無く、安心して過ごせる為の準備検討を、ドクター・看護師・介護スタッフと連携を取りながら、ご家族と話し合い支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族の事情やご本人の状態を考慮の上、職員間の連携を取りながら、安心して頂けるような対応を都度考え行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個々の反応に応じた言葉使いを選び、なおかつプライドを損ねないよう配慮している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の意思に添うよう出来るだけ相手のペースを尊重しながら対応している。日々かかわりの中から、ご本人の表現の仕方を理解するよう努める。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活リズムを把握し、それに添った対応をしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご家族と相談の上、ご利用者の希望のお店への送迎対応を行っている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>栄養面も考慮して、きざみやペースト食の提供を行っている。体調に合わせ、おかゆ等の提供も行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご利用者それぞれの好みに合わせた、おやつ・飲み物を提供しています。 現在は喫煙や飲酒される方はいませんが、お正月には、お神酒を振舞っています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ご利用者の表情・行動・時間・水分量を把握して、トイレ誘導し、出来るだけトイレでの排泄を心掛けています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に1週間に2回のペースで入浴しますが、ご利用者からのご希望があれば、その都度対応しています。入浴中はお話や歌を歌ったりと入浴を楽しんでいます。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の生活習慣を考慮しながら、ご利用者が安心して休息・入眠できる様な雰囲気づくりに心がけ、入眠傾向が強い場合は、入床を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の能力を考えながら、ご利用者にあった役割を職員全員で考え、ご利用者の力を活かした役割を提供している。 また、当日の気候や体調を考慮しながら、植え替えや草むしり等の畑仕事を楽しまれている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	定期的買い物ツアーや外出行事を設定し、希望の物やお土産などを購入していただく様にしている。また、外出出来ない方には、購入希望品を教えていただき、介護スタッフがまとめて購入している。		外出できない方々の為に、現在、数社の訪問販売業者を施設内に呼び販売をしていただける様、計画中です。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には出来るだけ、職員が声掛けをして散歩・外出などに出掛ける様、促している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	定期的な催し物・外出行事など行事予定を立て、ご利用者に希望を取りながら参加している。 また、普段中々参加されない方にも、職員全員で話し合い、実現できる計画を立てている。		今後、ご利用者一人ひとりの希望を聞き、ご家族と相談のうえ実現していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者より、希望がある場合は職員が電話を掛け、居室内で話ができる様プライバシーにも配慮しながら行っている。 また、郵送物もなるべくご利用者が自分で投函できる様、ポストまでの送迎・付添いを行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問者の方が気軽に来られるよう、ユニット内の明るい雰囲気づくりに心掛ける。 訪問時間を定めておらず、いつでも訪問できるよう配慮している。 また、ご本人の居室内で落ち着いて頂けるよう、椅子などを用意したり、大人数の場合は食堂のテーブルを利用していただいている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホーム長会議・ユニット会議で随時身体拘束を行わないケアを話し合い、全職員がマニュアルを理解し、実行している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は家庭的な生活を心掛け、ご利用者が自由に出入りできる様、玄関の鍵を掛けてはいない。 また、普段より、ご利用者の動きに職員全員で注意を払い、ご利用者が外に出そうな時は、さりげなく付添うよう心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	基本的に居室への訪問はご利用者に無断では入らない。居室内に居るご利用者にはプライバシーに考慮しながら対応している。夜間帯は生活音に気を配りながら、2時間おきに巡回し、その都度ご利用者の安全を確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁・はさみ等の危険物は、職員が付添いながら使用していただき、収納場所には施錠できる様になっている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	全体会議・ユニット会議において、ヒヤリハットや事故報告書を用いて事故防止取り組みや発生時の対応策を職員全員で話し合っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	スタッフ全員、消防署の協力により普通救命講習(Ⅱ)を受講し、応急手当・AEDの使用方法を理解している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	非常灯設置、災害時の避難経路、場所、担当が決められ、年2回の消防訓練を行い内1回は消防職員立会いのもと、全体避難訓練を行っている。		町内会で行われる、災害時避難訓練に、ご利用者・介護スタッフ参加をし、地域の方々との交流も含めて検討していきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	現在のご利用者の状態や今後予想されるリスク、その対応策を、ご家族に来荘時や電話連絡等で具体的に分かり易く説明をし、話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の希望を考慮して、理解・協力を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ご利用者の急変時には速やかに状況を把握し、看護師に状況報告し指示をいただき、また日中、ご利用者の異変についても確実に夜勤者へ申し送り、夜間起こりうる緊急時にも敏速に対応している。 入浴時には必ずバイタルチェックを行う。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	調剤薬局からの処方箋を参考にし個人のファイルからチェックして、ご利用者の服薬内容を全職員が把握している。 また、誤薬に関しては、特に注意を払い、日付・名前を服薬前に個人の前で確認し読上げるなどしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	下剤を服用している方もいますが、ご利用者の状態を見ながら、水分補給の声掛けを促している。 午前中は散歩や体操をするなど努力をしている。 便意がある場合、トイレ時に腹部マッサージなどをして、なるべく腹圧をかかえるよう促している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝・晩、職員が見守り、注意を払いながら個々の力を活かした口腔ケアを行い、磨けない人に関しては、介助者にて口腔ケアをさせていただいている。 痛みのある場合は、その都度、歯科医師に通院されている。 また、義歯に関しては全員夕食後に外していただき、義歯洗浄剤にて消毒をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	コップでの水分摂取が難しいご利用者には、職員が声掛け誘導やストロー付マグカップを使用している。 また、嚥下状態が悪い方や食べ方にムラのある方には、ペースト状のフードやきざみ食を提供し、その方にどの様に提供した方が良いか職員全体で考え、個々のご利用者に対応している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ユニット会議の中で資料を基に、話し合い職員全員統一した考えで、外部からの感染・消毒の過度・掃除の仕方・汚染物の処理など予防に向けて心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、食器類は夕方消毒機に入れ洗浄し、調理器具は夕食後ハイターに浸け消毒を行っている。 また、食材は常温では決して置かず必ず冷蔵庫に入る様にし、生野菜は温野菜に変更したり、ハムなども一度湯通しして使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	施設周辺に畑や花壇があり、玄関近くにはベンチを設け、ご利用者がくつろげる場所を確保し、居室に居ながらも窓から畑が見れるようになっている。 また、ご訪問者が気軽に親しみやすく、いつでも来荘できる、全職員が明るい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベランダ付近に食卓テーブルを設け、食事時間は、外からの自然光の中、外の風景を楽しみながら食事ができるよう工夫している。 夜間はトイレ付近には常夜灯を設け歩行に支障をきたさないようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々のご利用者が不快にならないよう、職員がご利用者の日常生活スタイルを細かく察知し、居間・食堂周りのテーブル・椅子の配置している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際は、ご本人・ご家族に入居の際はできるだけ馴染みの家具や食器の持込をお願いしています。 また、ご利用者の状態を考慮して、ご本人・ご家族の了承を得ながら、随時部屋の模様替えを行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝、定期的に一定時間換気を行っています。 ご利用者の状態を考え、気を遣いながら、こまめに温度・湿度の管理を全員しています。 特に、尿臭や便臭については、ご利用者に気を遣いながら、さりげなく換気を行ったり、消臭スプレーをまくなど対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居間や居室に関しても、不安定に物は置かない、トイレ・浴室においても手すりなどを利用して立ち上がりの補助に使用している。 全介助ではなく、ご本人の腕や足の力を弱めないためにも、ご本人が出来る所はなるべくやっていただく。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室やトイレにご利用者にわかり易く手作りの表札をかけて、場所の間違いや混乱を防ぐよう工夫をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	天気の良い日には出来るだけ、散歩・外出などに誘い、畑の作物を収穫したりして収穫の喜びを味わう、昼食時に外で焼肉行事を企画し、皆さんで外での食事を楽しむ。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)